



内閣府 鳥取県災害ケースマネジメント協議会
災害ケースマネジメントに関する
地方公共団体及び関係民間団体向け研修会

ワークショップ

災害ケースマネジメントに取り組むためのケース検討

2025年 1月14日 (火曜日)

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

鳥取県災害福祉支援センター 災害支援専門官 白鳥孝太



鳥取県中部地震での
災害ケースマネジメント

鳥取県中部地震

2016(H28)年 10月21日(金) 14時 7分
震度 6 弱(マグニチュード6.6)

鳥取県中部地震での被災者の「つぶやき」



「地震以来、雨漏りがひどいけれど、誰に相談したら良いのか見当がつかない・・・」



「心配ごとが多くて・・・ここ最近、体調も気分もすぐれない」



「屋根修理の見積もりを取ったら、250万円と言われて途方にくれている・・・」



「息子や親戚とも疎遠で頼れる人が居ない・・・」



「震災前から、お金に困っていたが、状況が悪化している・・・」



困窮被災者の状況と対応事例

ケース① Aさん親子

80代の母親と50代の息子の二人暮らし。息子は20年以上のひきこもりで無職。母親は病気がちで歩行困難。食生活や衛生面での課題があるが頼れる家族も少ない。収入は母親の年金のみで経済的にも困窮。

行政（福祉課）：生活保護の検討
地域包括支援センター：介護保険活用の検討
ひきこもり支援のNPO：家族への相談対応
民生児童委員：関係者との意見交換と見守り

ケース② Bさん

70代の男性ひとり暮らし。地震で屋根が破損し雨漏りがひどい。「ゴミ屋敷」でノラ猫に餌を与えるため、近所でも敬遠され孤立状態。近隣からは役所へ苦情がある。頑固で支援の申し出を断る傾向が強い。

行政（住民課）：ご近所への対応（調整）
瓦業団体：屋根の修繕（補助金内での修繕）
保護猫NPO：本人と自治会の「地域猫」活動
自治会：各支援関係者と住民(苦情元)の調整

ケース③ Cさん家族

50代の母親と子3人の母子家庭。借家の屋根が修理できず雨漏りがひどい。就労が不安定で経済的困窮で家賃滞納がある。子の不登校など悩みが多いが、移住後の被災で知人が少ないため相談相手がいない。

社会福祉協議会：定期訪問と関係者との調整
ハローワーク：就労に関する相談対応
ボランティア団体：屋根の簡易修繕
宅地建物取引業協会：賃貸契約に関する相談

ケース④ Dさん夫婦

80代のひとり暮らしの女性、視覚しょうがい者。地震で持ち家に全体的な被害がある（床の陥没と屋根の雨漏り等）。相談できる家族や知り合いが居らず、精神的にも衰弱し不眠が続いて病気がち。

行政（福祉課）：生活保護(住宅維持費)活用
建築士：予算内での修繕方法の計画立案
建築連合会：補助金を活用した修繕の実施
民生児童委員：支援関係者との調整と見守り

「災害ケースマネジメント」が必要になる理由

① 既存の支援制度の活用が出来ない人の支援（不平等の是正）

➡ 罹災証明書 や 被災者生活再建支援制度の支援金を受け取る手続きなど申請の方法が分からずに「一般的な支援制度が活用できない住民」も他の人々と等しく「生活の復興」が進むように補助し、支援策につなぐ。

② 複合的な課題で生活の復興が進まない人の支援（重層的な支援）

➡ 被災前からの困窮や不安定な家庭環境など複合的な状況に加えて被災しさらに困難な状況となった世帯に対して、多機関による連携で取り組む。

③ 「一軒」の復興の遅れは、地域全体の復興の遅れになる（地域全体の復興）

➡ 様々な原因で生活の復興が進まない世帯を支援し、課題解決に取り組む事は、周辺住民の「安心なくらし」や「地域全体の安全」にもつながる。



④ 支援の実施

多業種、多職種の協力を得て、土業や専門職、ボランティアなどによる支援や相談を被災者につないで、生活課題の解決を図る。

「②ケース会議」の協議を受けて支援方法や方針を「生活復興プラン」としてまとめる。支援開始後も進捗状況や訪問結果を記録する。

① 訪問調査の実施



家屋の被害、経済的困難、健康の不安、情報不足、孤立など「複合的な課題」で生活の復興が進まない方々を訪問して把握する。

③ 既存情報の整理



「避難行動要支援者台帳」「要支援者台帳」「生活困窮者自立支援制度」の対象者など、既存の情報を活かして、訪問対象候補の世帯を絞り込む。

③ 支援計画づくり



② ケース会議の開催



多機関が参加できる会議で、要支援者の個別の支援方針を協議する。
(例：「多機関協働の包括的な支援体制」「重層的支援体制」による支援会議、地域ケア会議等。事前に守秘義務を規定して個人情報を守る)



「多職種が連携する」
「地域内でつながる」
被災者支援のとり組み



ワークショップ

災害ケースマネジメントでのケース検討

～ 実際の「ケース会議」をイメージしながら連携方法を考える ～

ワークショップの進め方

① 自己紹介（お名前、ご所属、ご専門分野 など）



② 支援対象者（被災者）のお困り状況の再確認



③ 各自のご意見やアイデア（支援方法や連携について）



④ 今後にむけた検討（次回の会議や被災者訪問の準備）

例：今後の支援に向けて、確認しておきたいこと（ご本人やご家族などから）

例：次回の会議に加わってほしい支援関係者（他の業種や専門職など）

例：支援実施のために、確認や調整が必要なこと（所属内や関係組織など）

ワークショップの前提

● 町での「災害ケースマネジメント」

- 町では、被災前から「地域防災計画」に災害ケースマネジメントの実施について記載している。

「ケース会議(支援会議)」について

会議開催に必要な「個人情報の共有」や「守秘義務の規定」(個人情報の取扱い規定等)は整備済み。

参加者（みなさん）の立場について

行政との「災害時協力協定」や「日常からの関係性」から、各種団体や各組織に協力依頼があった。

支援対象となる被災者の方について

地域全体の復興のなかで「とり残されがちな方々」が居られるので、皆で協力してサポートしたい。

ワークショップの説明「台風15」による水害の発生！

2024年 9月21日（土曜日）から翌日にかけて、台風15号が山陰地方に接近し鳥取県東部では、大雨による河川の氾濫や土砂災害などの被害がでました。発災から4か月を迎える今、被災者の生活の復興が課題となっています。

大きな被害が出た「A町」「B町」「C町」の状況

各町の人口 約 9,500人（約 3,500世帯 / 高齢化率 33.5% / 罹災証明書発行数 350件）

人的被害：死者10人、安否不明者1人、重傷者 3人、軽傷者 25人

住家被害：全壊 30棟、大規模半壊 10棟、半壊 200棟、一部損壊 40棟

復旧状況：ライフライン復旧済（上下水道、電気、ガス等 全て） 応急仮設住宅 30棟（1月7日入居）

支援状況：全国からの応援派遣（年末に完了） 災害ボランティアセンター（年末に活動終了）

「地域防災計画」に記載された **災害ケースマネジメントの実施** が**今月決定された！**

ストーリー① 被災者 佐藤さんの状況

地区の民生児童委員の吉田さんから 社会福祉協議会へ相談があり・・・



台風災害からまもなく4か月、「近所に気になる人の家がある」という民生委員の吉田さんと一緒に佐藤さん(82歳/男性)のご自宅を訪問しました。
佐藤さん宅は「床下浸水」に見えますが、罹災証明書についてご本人は、「よくわからん。ほかの家の方がひどい、うちは大丈夫」とこれまでも支援を断ってきたそうです。ただ、玄関先でも「強いカビ臭」が気になります。
後で、吉田さんから「畳が『だわだわ』で、廊下に踏み抜いた穴もあった」
「一昨年に妻(79歳)を亡くしてから近所付き合いが無い。息子の剛さん(50歳)は20年以上ひきこもっているので、人を家に入れたくないのかも」と聞いた。
「ケース会議」にて、町の職員や専門職の方々に相談することにしました。

ストーリー② 被災者 鈴木さんの状況

役場の住宅担当課の相談窓口にくられた方が気になるので・・・



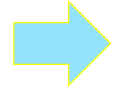
台風の大雨で自宅が床上浸水し「大規模半壊」となった鈴木さんご一家

(夫 47歳 会社員、妻 45歳 パート勤務、長男 22歳、次男 18歳 / 世帯収入600万円) 自宅は昨年
新築したばかり(住宅ローン残り25年)。夫の正さんは「家は解体し土地を売って
しまうか再建か、費用を抑えてリフォームに向かうか・・・」と悩んでいて
「長男は自閉症で町内の作業所で働いていたが、施設も被災し再開の目途は
立ってない。次男は、この春大学受験で学費も心配です」また、避難生活
の疲れで最近、妻が「ふさがち」で長男も行き場がない、家の片づけも
「みなし仮設」の賃貸物件探しも進んでいないことなどを相談されました。

「ケース会議」にて、町の職員や専門職の方々に相談することにしました。

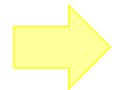
ケース会議への関わり方の要点

行政の方



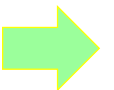
- ・ 会議の環境を整える（例：開催場所、時間、出席者の調整、進行、記録等）
- ・ 役所庁内の他課への声かけ（例：会議後の情報共有 や 協力依頼 等）
- ・ 社会福祉協議会や鳥取県等への相談（例：会議後の情報共有 や 協力依頼 等）

専門職の方



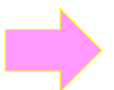
- ・ 専門性や職種を活かした支援方法の検討と提案（所属組織内での調整）
- ・ 他の専門職への声かけや連携方法の提案（県域や全国のネットワーク）

NPOの方



- ・ 専門性や得意な活動分野を活かした支援の実施
- ・ ネットワークや中間支援組織を活かした「つながりの支援」の実施

社協の方



- ・ 災害ケースマネジメント実施主体の行政の支援（訪問、聞き取り 等）
- ・ 支援対象者や家族、地域の特性にあわせた「伴走支援」の実施
- ・ 地域内の福祉ネットワークを活かした支援方法の検討と提案

災害ケースマネジメントの要点

「あの手 この手」で・・・

まずは、今「できること」から始めてみる

「福祉的」「経済的」「建築的」様々な視点で関わりをつくる

くらしの復興はご本人が主体、「その気」になってもらえる「きっかけ」をつくる！

「パスワーク」でつなぐ！

「餅は餅屋」専門性を活かす！

多職種、多業種がそれぞれの専門分野で関わる
様々な種類の支援を「組み合わせて」とどける

専門職を被災者に つなぐ のは「つなぐ専門」に！

「たらい回し」ではなく「パスワーク」
支援関係者の間で「役割分担」を明確に
継続的な伴走支援を「バトン」でつなぐ！

① 支援方法の提案やアイデア

② 多職種で連携するために必要なことやアイデア

③ 「ケース会議」や「災害ケースマネジメント」についてわからないこと（確認したいこと）

④ 被災者について知りたいこと（ご本人や家族などに確認したいこと）

⑤ 所属先や関係組織（協会や組合）に事前の確認または調整が必要なこと（支援に協力するために）

⑥ そのほか（ご意見やご質問、研修会やワークショップについてのご意見など）
